

# 村上地域における「新之助」の栽培ごよみ

目標の収量構成と品質	
目標収量	540kg/10a
穂数	400本/m <sup>2</sup>
1穂粒数	70粒
m <sup>2</sup> 当り粒数	28,000粒
精玄米粒数歩合	81%
千粒重	24.0g
検査等級	全量1等
玄米タンパク質	6.3%以下

栽培のポイント

- (1) 健苗育成 : ①育苗日数は20日程度(加温20日、無加温25日)  
②播種(加温)は4月25日頃、播種量は乾籾130~150g/箱
- (2) 過剰生育防止 : ①1株苗数3~4本植えとし、茎質向上  
②栽植密度は50株/坪を基準  
③基肥窒素量は3kg/10a(基肥一発肥料は5kg/10a)を基準(低地力ほ場では窒素1kg/10a程度増肥する)  
④中干し・溝切りは、田植え後1ヶ月頃に茎数を把握して目標穂数の8割程度を確保したら開始(過繁茂しやすい場合は7割確保したら開始)
- (3) 登熟向上 : ①1回目の穂肥時期は出穂期21~18日前(幼穂長5~10mm)  
②出穂前後50日間は飽水管理とし、田面を乾かさず根の健全化と地力窒素の発現を促進  
③落水は出穂25日以降(通水最終日に十分かん水)とし、登熟向上

- (4) 病虫害防除 : ①葉いもちは箱処理剤等で必ず予防  
②穂いもちの適期にカメムシ類との同時防除  
③必要に応じて穂いもちの追加防除
- (5) 収穫・乾燥 : ①刈り遅れせず適期収穫(黄化割合85~90%、積算温度で1050~1,100℃)・調整  
②刈取水分に応じて乾燥温度を調節  
③篩い目は1.9mm以上を使用
- (6) 土づくり : ①稲わら・もみ殻の秋すき込み  
②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

- ・出穂期、成熟期はコシヒカリより6日及び7日遅い、極良食味の晩生品種
- ・高温耐性は強、障害型耐冷性は弱
- ・「わたぼうし」並にいもち病に弱い

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」！  
また、いもち病にとても弱いので、十分注意しましょう！

